

令和5年度 第2回 山梨県がん対策推進協議会概要

1 日時 令和5年10月30日（月）午後4時～5時30分

2 場所 オンライン開催

3 出席者（21人中16人出席）

飯島委員、大西委員、長田委員、小俣委員、木内委員（代理）、窪田（恭）委員、窪田（良）委員、小嶋委員、廣瀬委員、松田委員、山口委員、山寺委員、由井委員、依田委員、若尾委員、渡辺委員

4 次第

1. 開会

2. 議事

（1）山梨県がん対策推進計画（第4次）素案について

資料1 山梨県がん対策推進計画（第4次）素案

資料2 山梨県がん対策推進計画（第4次）の概要

（2）山梨県地域保健医療計画（がん関係）素案について

資料3 第8次山梨県地域保健医療計画（がん関係）素案

（3）その他

委員提供資料

5 概要

（議事）

（1）山梨県がん対策推進計画（第4次）素案について

- ・資料1 山梨県がん対策推進計画（第4次）素案
- ・資料2 山梨県がん対策推進計画（第4次）の概要
（健康増進課から資料説明）

・各委員から意見

（概要）

- ・第4次の概要に記載されたことを実行していくために、ロジックモデルが必要。目指すべきは、「誰一人取り残さないがん対策」で、県民が「自分を取り残されていないと思える」状態を、第4次の6年間で作るのが最終アウトカムになる。より効果的な数字を意識して作っていただきたい。
- ・「がん罹患率の減少」「がん死亡率の減少」「がん生存率の向上」「全ての患者及び家族の療養生活の質の維持・向上」の指標はしかるべき数字を数値目標として、しっかり明記した指標にしていきたい。
- ・たばこ対策は、教育委員会を含む山梨県全体で、実のあるものになっていければと感じている。若い時に、たばこをたくさん吸ってしまう人が、問題であろうかと思っている。

- ・子宮頸がんはワクチンで予防できる病気であるため、県は教育委員会と連携して推進していくことも大事である。
 - ・受診率について、市町村において職域検診の受診者数を把握する方法がないため、市町村ごとの正確な受診率が把握できないことが課題である。
 - ・市町村としては、県と連携、情報共有する中で、市民の方が迷わず治療を受けられる状況を作っていきたい。
 - ・指針に基づかないがん検診の例として、前立腺がん検診（PSA 検査）が挙げられているが、前立腺肥大の発見などがんの早期以外にも役立つのではないか。
 - ・PSA 検査は、「指針に基づかないがん検診」に入ってしまうが、その他様々なことに貢献しているので「がん検診」ではなく、個人で行う「健康診断」「人間ドック」というような取り扱いにして、県のヘルスリテラシーが上がるよう情報提供を行えば、より充実できるのではないか。
 - ・膵臓がんも増えているが、超音波検診で小さいものも発見できるようになったので、力を入れていきたい。
-
- ・医療について、「均てん化を推進する」とともに「集約化を推進」としているが、これを両方とも掲げるのは非常に厳しい。「連携体制をいかに構築するか」「患者さんのアクセスをしやすくする」「施設ごとの連携をいかに強化するか」を具体的に書かれた方がいい。
 - ・ある程度高度な医術が求められる疾患については、集約化が望ましい。
 - ・がん診療連携拠点病院等以外にも、大腸がん、胃がん、乳がん等は、多くの県内病院で治療されているため、そのような病院も含めた情報共有をより活発にしていけないといけない。今後はがんを診療している県内の病院が一丸となって情報共有できるシステムができることを望む。
 - ・連絡協議会を活性化して、拠点病院以外の病院とも連携し、地域で求める患者の集約化をサポートする仕組みがあればいいと思う。
 - ・「Shared decision making（患者さんとともに考えるがん医療）」に関する方策について盛り込めないか。がん治療に関しては様々な治療法があり、それぞれの治療に関して専門的な視点で説明を聞いた上で、患者さんとともに治療法を考えるのが、治療方針の立て方で非常に重要な視点になっている。各治療法の専門家や診療科に十分に受療した上で治療方針について相談できる仕組みを構築する点やそれを支援する点について盛り込めないか検討いただきたい。
 - ・歯周病でサイトカインを出すインターフェロン6が、がんの治療にも影響を与えることがわかってきている。また、治療中にサルコペニアを発症すると化学療法や放射線療法を中断してしまうこともあるため、栄養の管理とともに、歯科の管理を進めていきたい。
-
- ・サバイバーシップの充実として、退院後のがんリハビリテーション、がん相談、相談支援の充実、ピアサポートの充実をしていただきたい。
 - ・がん患者の相談支援も、患者さんに伝わっていない現実もあり、アナウンスの徹底を図っていかなければならない。
 - ・がん教育について、小中高校から検診機関に対する講師依頼もかなり増えていおり、力を入れてきていきたい。

(2) 山梨県地域保健医療計画（がん関係）素案について

- ・資料3 第8次山梨県地域保健医療計画（がん関係）素案
（健康増進課から資料説明）

- ・各委員から意見

（概要）

- ・全がんの死亡率は10年間で概ね20%下がっているが、減少に貢献しているのは胃がんと肝臓がんで、他の大腸がん、乳がん、子宮頸がんは減少していない。ここに注視して対策を立てれば、もっと大きな成果を県民が享受できると思う。
- ・大腸がんの死亡率が改善していない。精密検査受診率を改善するためにフォローアップする体制が必要。
- ・がん対策を練る中で絞られてきた問題点への対策を確実に実行に移すことが重要。

(2) その他

- ・委員提供資料
（委員から資料説明）